

鳥取県病原微生物検出情報

(令和 7 年 12 月検出分 検体採取 令和 7 年 11 月及び 12 月)

令和 8 年 1 月 日
鳥取県衛生環境研究所

1 急性呼吸器感染症

臨床診断名が急性呼吸器感染症の検体 75 件について検査を実施したところ、以下のとおりの結果であった。

○検査対象（ウイルス）

ライノ、メタニューモ、インフルエンザ-A 型及び B 型、パラインフルエンザ 1-4、RS-A 型及び B 型、ボカ、SARS-CoV-2、エンテロ、アデノ、コロナ NL63 (※1)、コロナ OC43 (※2)

○検査対象（細菌）

百日咳菌 (※3)、*Bordetella holmesii* (※3)、*B. parapertussis* (※1) (※3)、マイコプラズマ (※1)

※1 5 月 21 日搬入検体分より実施。

※2 10 月 1 日搬入検体分より実施。

※3 12 月以降の搬入検体分については試験休止中。

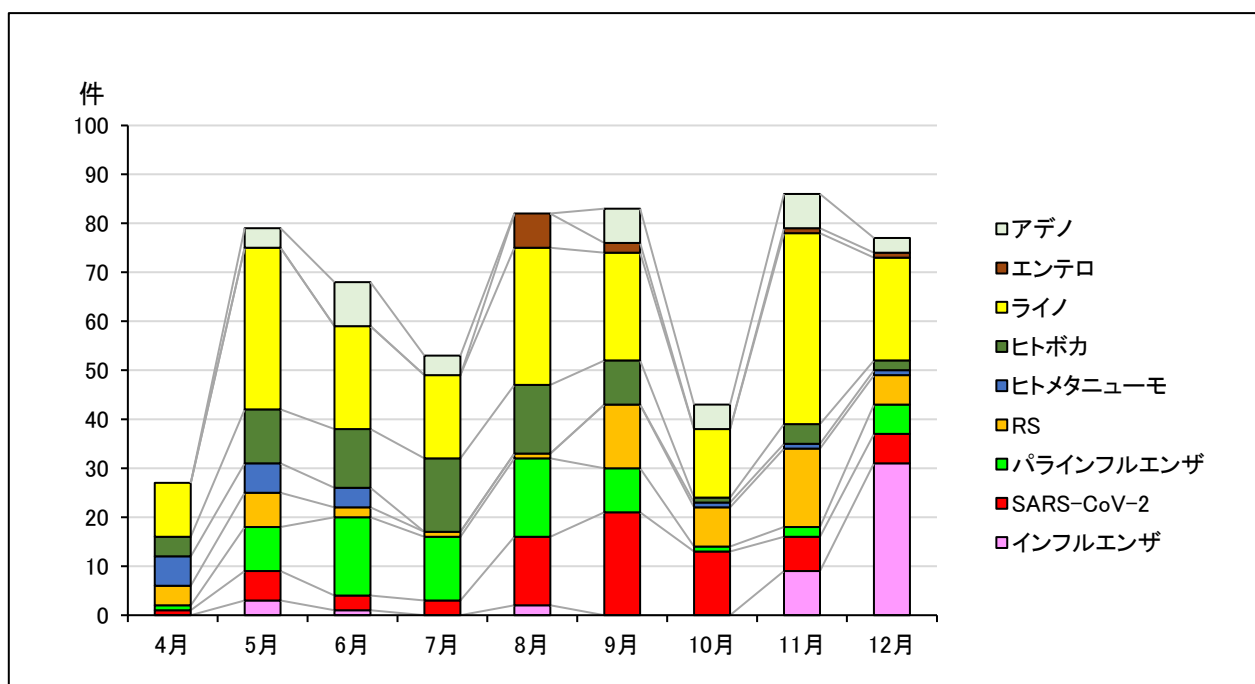
○検出結果

75 件中 67 検体 (89%) から上記対象病原体が検出された。内訳は、ライノ：21 件、ボカ：2 件、ヒトメタニューモ：1 件、RS-A 型：1 件、RS-B 型：2 件、SARS-CoV-2：6 件、パラインフルエンザ 1：2 件、パラインフルエンザ 2：2 件、パラインフルエンザ 4：2 件、アデノ：2 件、エンテロ：1 件、インフルエンザ A 型：31 件、コロナ NL63：4 件、マイコプラズマ：3 件であった。4 月から 12 月検出分と合わせた年齢別検出数は表 1 のとおり（ただし、検出件数は重複検出を含む。）。

表 1. 急性呼吸器感染症の病原体、年齢別検出件数（令和 7 年 4 月～12 月検出分）

病原体年齢別検出数（12 月検出数/累積）																
年齢	0-4		5-9		10-19		20-39		40-59		60-79		80≤		合計	
標本数	25	233	5	36	2	12	11	49	11	90	14	110	7	50	75	580
ライノ	12	141	2	15	1	6	4	14		18	1	10	1	2	21	206
ボカ	2	67		1				1				2		1	2	72
ヒトメタニューモ	1	11								2		6			1	19
RS-A	1	4								1		2			1	7
RS-B		16		2				1	2	4		6		6	2	35
SARS-CoV-2		10		1		1		5	1	15	4	27	1	15	6	74
パラインフルエンザ 1		1							1	1	1	1			2	3
パラインフルエンザ 2	1	7	1	3								3			2	13
パラインフルエンザ 3		15								6		6		5		32
パラインフルエンザ 4	2	21		1						1		2		1	2	26
アデノ	2	22		2				3							2	27
エンテロ	1	11													1	11
インフルエンザ A 型	6	10	3	3	1	2	4	6	6	9	8	8	3	3	31	41
インフルエンザ B 型		1				2		1		1						5
百日咳				2								1				3
コロナ NL63	4	6										1			4	7
コロナ OC43																
マイコプラズマ	2	9		1		1	1	5		3		1			3	20
検出せず	1	19		10		2	3	19	1	31	1	38	2	17	8	136

図 1. 月別主要ウイルス検出状況（令和 7 年 4 月～12 月検出分）



アデノウイルスについて、前回の報告で解析中だったものも含め 4 件の解析を行ったところ、3 件が C 種 2 型、1 件が F 種 41 型であった。アデノウイルス C 種 2 型は急性呼吸器感染症の原因となるウイルスである。F 種 41 型は感染性胃腸炎の原因となるウイルスであり、当該患者は胃腸炎症状を有していたが、鼻汁から F 種 41 型が検出された報告は見当たらず、因果関係は不明である。

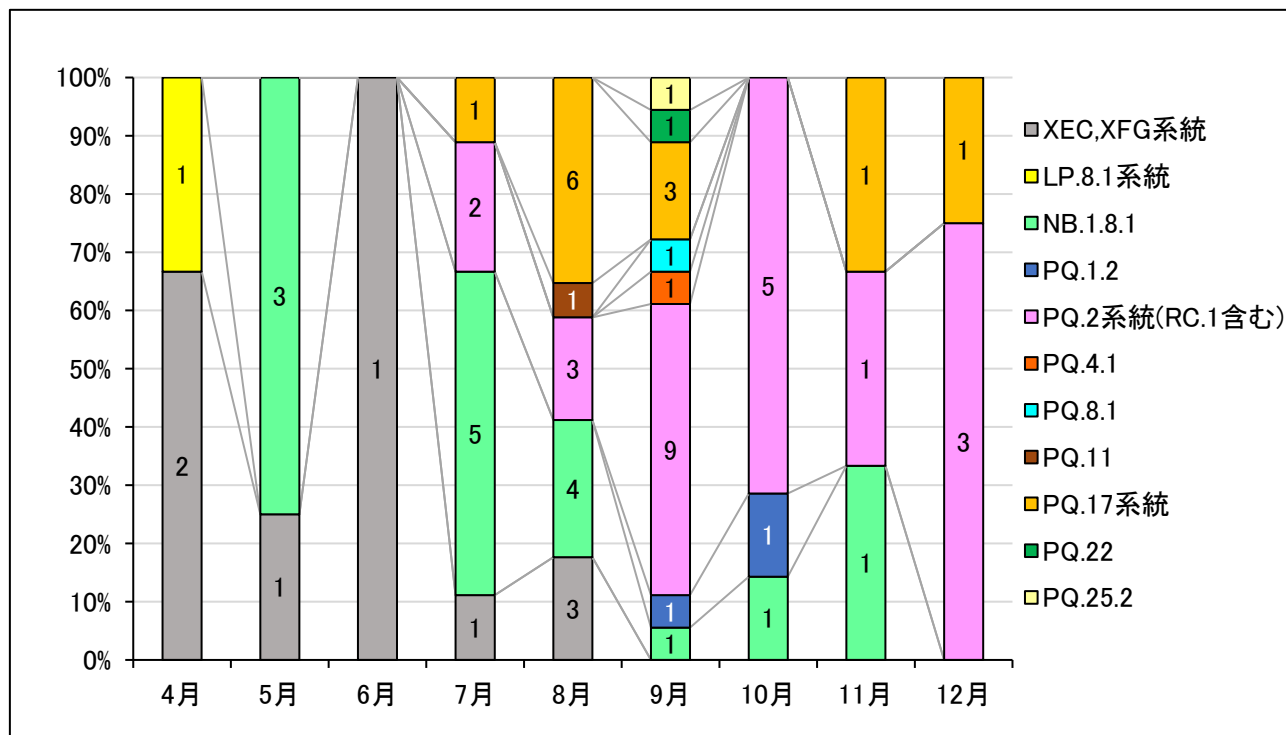
インフルエンザは検出された A 型 31 件全てが H3 型であった。

SARS-CoV-2 の系統は表 2 及び図 2 に示すとおり、NB. 1. 8. 1 が 1 件、RC. 1 が 4 件、PQ. 17 が 1 件であった。今回初めて検出された RC. 1 は、PQ. 2. 8. 1 から変異した株である。国立感染症研究所が公開している全国のゲノムサーベイランスによる系統別検出状況でも、NB. 1. 8. 1 系統と、NB. 1. 8. 1 系統の下位系統が依然大多数を占めている。

表 2. SARS-CoV-2 ゲノム解析結果（令和 7 年 12 月検出分）

検体採取年月日	年齢	型別
R7. 11. 25	50 代	NB. 1. 8. 1
R7. 11. 30	70 代	RC. 1
R7. 12. 3	70 代	PQ. 17
R7. 12. 8	70 代	RC. 1
R7. 12. 8	80 歳以上	RC. 1
R7. 12. 8	60 代	RC. 1

図 2. 月別 SARS-CoV-2 ゲノム解析結果（令和 7 年 4 月～12 月検出分）



2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の 1 件について検査を行ったところ、感染性胃腸炎の原因となりうるウイルスは検出されなかった。

3 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

前回の報告で解析中だったものも含め、臨床診断名が A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の 16 件について検査を行ったところ、A 群溶血性レンサ球菌が 11 件（T 型別 4 型：6 件、T 型別不明：5 件）分離された。4 型は咽頭炎で多くみられる型である。

4 流行性角結膜炎

前回の報告で解析中だったものも含め、臨床診断名が流行性角結膜炎の 2 件について検査を行ったところ、2 件ともアデノウイルス D 種 54 型が検出された。D 種 54 型は流行性角結膜炎の原因ウイルスである。

5 RSウイルス感染症

臨床診断名が RS ウイルス感染症の 3 件について検査を行ったところ、B 型が 3 件検出された。